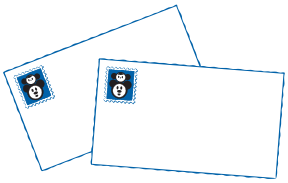


Letters

レターズ / 加入者や保護者の皆さんから寄せられたお便りをご紹介します。

今回は以前レターズに掲載されたお便りへのお返事からご紹介します。

千葉県
晴れ女さん（母）

2022年スマイルズ秋号掲載 /
ご長男をヤングケアラーにしてしまったのでは、
とお悩みの奈良県O・Yさんへのお便り

O・Y様へ

Smiles秋号を拝読して、メッセージに胸を掴まれる思いでした。私も、この春、高校1年生の長男を他県の高校へ送り出した母親です。夫が亡くなった時の長男の年頃も同じで、下には妹がおり、お気持ちが、とてもよく分かる気がしました。

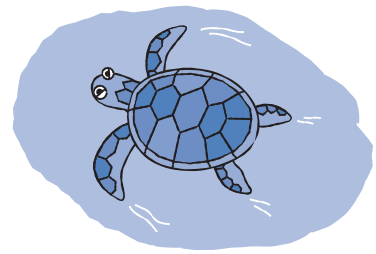
我が家は実は、再婚のご縁があり、現在は子ども4人の大家族となっています。

夫が亡くなり3人家族となってしまった後の、寂しく慌ただしい日々の中、ある日長男に言われた、「さびしいから、お母さんが死んじゃったおうち（母親を亡くされた、他のご家族）をさがそうよ」の言葉を叶えるため…と思い、走ってきましたが、今振り返ると、あれは長男が、自分の寂しさから希望を述べたのでは無かった、私の寂しさを思い遣ってくれた言葉だった気がしています。

新しい家庭を作るため、長男には沢山我慢をさせ、母親である私と過ごす時間も、結果的にかなり少なくしてしまったと思うのです。

そんな長男が、進路選びに際して県外の高等学校を言ってきたとき、家庭が居づらかったのか、早く出ていきたいのか…と、切ない思いもありましたが、学校見学や入試のため、母子2人だけで過ごす時間を、今までになく多く持つことができました。そんな風に改めて息子と向き合うと、いつの間にかガッシリと大きくなった体、自分の意志や希望を持ち、巣立っていく心の成長を感じることができました。また、あの幼い頃と同様、心配をかけないように背伸びをしているのかもしれませんが、今は、信じて見守る道を選びたいと思います。

O・Y様もきっと、お子さま方の為、必死で走ってこられたのではないでしょうか。子どもが一番求めていたものは与えられたかどうか分かりませんが、母親の愛情は、きっと受け取って貰えていると信じたいです。O・Y様の長男さんも外に出られるとのことで、出掛けてゆけるエネルギーに満ちた心身を育て上げたのは、きっと、私たち母親の実績と誇っても良いのではないかと思います。子ども達の出てゆく先に、沢山の幸せがありますように、そして、O・Y様にも穏やかで幸せな日々がありますように！



福岡県
I・Sさん（加入者）I・Yさん（母）

♧加入者さまより

16年間という長い間ご支援いただきありがとうございました。私は無事大学に合格し、現在充実した大学生活を送っています。これからの4年間は自分の夢を叶えるためにしっかり勉強していこうと考えています。本当にお世話になりました。

♡お母さまより

この度は、完了給付金と図書カードをいただきありがとうございました。長年に渡り、給付金、映画鑑賞券など色々なご支援をしていただきとても感謝しています。精神的にも支えていただき、生活面でも助けていただき、ありがとうございました。

おかげ様で息子は大学へ進学することができました。これからも子どもと二人で支え合って、毎日大切に過ごしていきたいです。長い間、ありがとうございました。

兵庫県
N・Mさん（母）

いつもお世話になりありがとうございます。主人が亡くなったとき、3歳だった末っ子の息子は、この3月に中学を卒業し高校生活をスタートさせました。お祝いをありがとうございました。

貴基金のみなさまの支えは、本当に大きいものでした。3人の子ども達の義務教育がすべて終わった…ということへの節目を感じています。ここからは、自分の思いでそれぞれの道へと進んでいく背中を押してやるのが親の役目と思っておりますが、正直、お金がないと何もできません。ですので本当に感謝しております。

入学式、卒業式など、学校行事に私ひとりで参加することの寂しさはいまだに慣れず、ご夫婦で来られている方が、とてもまぶしく見えます。

息子は父親のことを全くと言っていいほど覚えておりません。私も伝えるのが何かためらわれる部分があり、泣きそうになるので、父親の話題は避けてきました。だめだなあ…と思い反省しています。まだまだ子育ては続きますが、自分自身も健康を保ちつつ、ゆっくりペースで過ごしていきます。これからもよろしくお願いします。

徳島県
K・Yさん（祖母）

平成16年に主人が病気で亡くなり、その4か月後息子の妻が中央線をはみ出し、コンクリートミキサー車と衝突し、2人の幼子を残したまま亡くなりました。上の子は2歳、下の子は8ヶ月でした。

私は仕事を辞め2人の子を育てようと決心しました。何年かして、息子はまだ幼い2人の子を残して1人で出て行き再婚しました。思春期には父親に捨てられたと寂しさや怒りの混ざった苦しい想いを私にぶつけてきました。私は、この子たちを育て上げることができるのだろうか？と逃げて楽になりたいという気持ちに何度かなりました。

一つの事故により、関わる人たちの人生がこれほどまでに変わってしまう怖さを痛感しました。幼かった子ども達も、20歳と19歳になり仕事に大学にと元気に頑張っています。

今まで支えていただき、本当にありがとうございました。

千葉県
S・Mさん（母）

延べ10年の長きに渡り、大変お世話になりました。末っ子がこのたび基金を卒業することになりました。当初は頼れる人もいなく、一人で子育てをしていけるのか不安でしたが、経済的な支えがあったからこそ、何とか前向きに進んでこれました。

三人の子どもたちにはこれから大きな試練があると思いますが、たくましく生きてほしいと願っております。

最後に、皆様のご多幸をお祈りいたします。

滋賀県
S・Kさん（母）

毎年映画の鑑賞券や、今年はライブのチケットも当たり、行くことができてとても嬉しいです。主人が亡くなって早、3年が経ちました。子どもの進学や入学の時に橋本給付金をいただき、本当に年々そのようなことがありがたく感じるようになってきました。

シングルマザーになり、サービス業の仕事を続けることが難しくなり、4月から転職することも決まり、やっと子ども達の生活も安定してきました。

上の子は中学1年生、下の子は小学4年生になるので、4月からの生活が楽しみです。毎年色々とありがとうございます。

千葉県
T・Tさん（母）

給付完了の知らせをいただき、ありがとうございました。基金のおかげで不安なく日々を過ごすことができました。スマイルズを拝読し、皆様の日々の生活や思いに自分を重ね励みにしておりました。たくさんの方の支えがあり、今があることを忘れず、これからも生活していきたいと思います。長い間お世話になり本当にありがとうございました。

となりのレターズ

みんながとなりに寄り添う「もう一つ」のLetterS

今号も、基金を卒業された保護者様にインタビュー。事故に遭われてからこれまでの道のりや子育てについて伺いました。ご登場いただいたAさんは、現在54歳。これまでに一人娘さんを育てていらっしゃいました。ご主人を亡くされたのは娘さんが生まれたばかりのころで、その苦しみは想像しがたいものがあります。しかし、その困難を乗り越えて、現在は幸せに暮らしていらっしゃいます。

第6回　保護者体験談編　兵庫県神戸市　お子さん1人を育てたAさんの場合

夫が亡くなったのは今から29年前の5月で、娘が生後19日目のことでした。警察からの知らせで病院へ駆けつけたのですが、意識は戻らず、そのまま逝ってしまいました。もう意味がわからなくて……。それからしばらくの間のことは葬儀のことも含めてどう過ごしたのか、よく覚えていないんですよね。でも、悲しいという気持ちより、娘を育てなければという気持ちを強く持っていた気がします。

夫は中学校の同級生で地元で暮らしていましたので、ありがたいことに実家の両親も夫の両親も近くにいてくれて精神的にも物理的にも助けてもらったのは、とてもありがたかったです。娘との生活を安定させるため、事故の保険で実家の近くにマンションを購入したのですが、そこへ妹が一緒に暮らしてくれたのも大いに助かりました。

仕事をスタート。再婚もしました

仕事を始めたのは娘が3歳になったときです。やっと前向きになれて、このままの生活ではいけないと思ってアルバイトを始めました。そして、娘が5歳になったときに再婚しました。相手の方は金融機関員で、年金や預金の積立などで何度か顔を合わせているうちに親しくなりまして、迷いましたが、娘がとてもなついていたので結婚を決意しました。でも、前夫の実家とは今でもおつきあいをさせていただいているんですよね。お義母さんがやさしい方で、ずっとよくしてくださるんです。だから、お墓参りと仏壇参りを兼ねて、今でも娘と家へ伺わせていただいています。

体調不良に度々陥り、娘は不登校に

再婚してからはとても順調だったのですが、気持ちがほっとしたからでしょうか、私が体調をくずしがちになって、病院へ行くことが続きました。また、そんな中、娘が中学1年生の2学期から少しずつ不登校になりまして、学校に行けなくなったんです。再婚した夫も支えてくれましたし、娘に学校以外で楽しい経験をさせようとピアノ教室やバトミントン教室へ行かせたりして、いろいろと手を尽くしたのですが、うまくいかず心配しました。でも、高校入学を機に落ち着きまして、それからは何事もなく大学へ進学。就職もして、今年は結婚をしたんですよ。高校生になって環境が変わったのがよかったようです。

頑張り過ぎないで。健康だったらなんとかなる

こんな私が読者の皆さんに何かお伝えできるとしたら、あまり頑張り過ぎないということですね。心も体も元気だったら、あとは流れに乗っていけば人生なんとかなる。自身の人生を振り返ってみると、そんなふうに思います。娘は「私には3人のおばあちゃんがいてラッキーだ」なんて言うんですよ。私もそう思います。考え方ひとつで、人生の色合いは変わるんじゃないでしょうか。

〈編集部より〉

Aさんはこれまでの人生を淡々と明るく語ってくださいましたが、手術入院を2回、腰も痛めたりと体調不良を乗り越えるのは大変だったと思います。けれども、現在もお仕事を続けられていて「細く働きながら人生を楽しみたい」とおっしゃっていました。その前向きな姿勢には感服しました。交通遺児育成基金も役立ったそうで「再婚したご主人に遠慮をすることなく、娘さんの資格取得や留学費用に使えた」とのこと。また、「LIVE SDD」も楽しんでいらっしゃったそうで、基金卒業後もチケット入手に挑戦したそうですが、「当たらないんですよね」と苦笑いしていました。現役読者の皆さん、いまが「LIVE SDD」へ行くチャンスですよ!!　そしてAさん、心強いメッセージをいただき本当にありがとうございました。